

【授業の目的・内容・進め方・履修上の条件等】

国際経済及び国際政治経済諸問題をより深く理解する能力を育てる。修士論文の中間報告等学生の研究報告及びそれを基にした討論を中心とする。またそれ以外の日は、国際経済に関するテーマ、または貧困問題などの国際政治経済の諸問題、その他受講生各自の関心に沿ったテキストや論文を中心に選んで読んでいきたいと思っているが、最終的には授業の参加者と相談の上決定する。国際政治経済学研究 1 を受講済みであるか、国際経済学の基礎があることが望ましい。

【評価方法】

ゼミでの割当の発表、毎回の参加の度合い、課題レポート等で総合的に評価する予定。

【内容】

国際政治経済諸問題及び貧困等に関するテーマにおいて修士論文執筆者及び他に自分の研究を進めている人がいれば、その院生の報告を優先する。その合間を縫って、集中講義及び次の書籍のいずれか(他知的所有権関係の論文?)を読みたいと考えている。

下川雅嗣 (2007) 「経済学から見たグローバリゼーション」『コスモポリス』 1, 63-68.

矢野誠編著(2007)『法と経済学：市場の質と日本経済』東京大学出版会

Joseph Stiglitz and Andrew Charlton (2005) *Fair Trade For All: How Trade Can Promote Development*, Oxford University Press.(浦田秀次郎監訳、高遠裕子訳 [2007] 『フェアトレード：格差を生まない経済システム』日本経済新聞出版社。)

※一回のクラスで 1or2 章進める予定で担当を決めるが質疑応答・討論に時間がかかる場合は順に次回先送りしていくつもりなので担当は後ろにずれていくことはある。

<予定>

10月7日:イントロダクション。内容・役割分担決定。

10月14日:

10月21日:

10月28日:

11月4日:

11月11日:。

11月18日:

11月25日:

12月2日:

12月9日:

12月16日:

1月6日:。

1月13日:

1月20日:

* 1月18日が修士論文提出期限